

Hello! FUJISEI

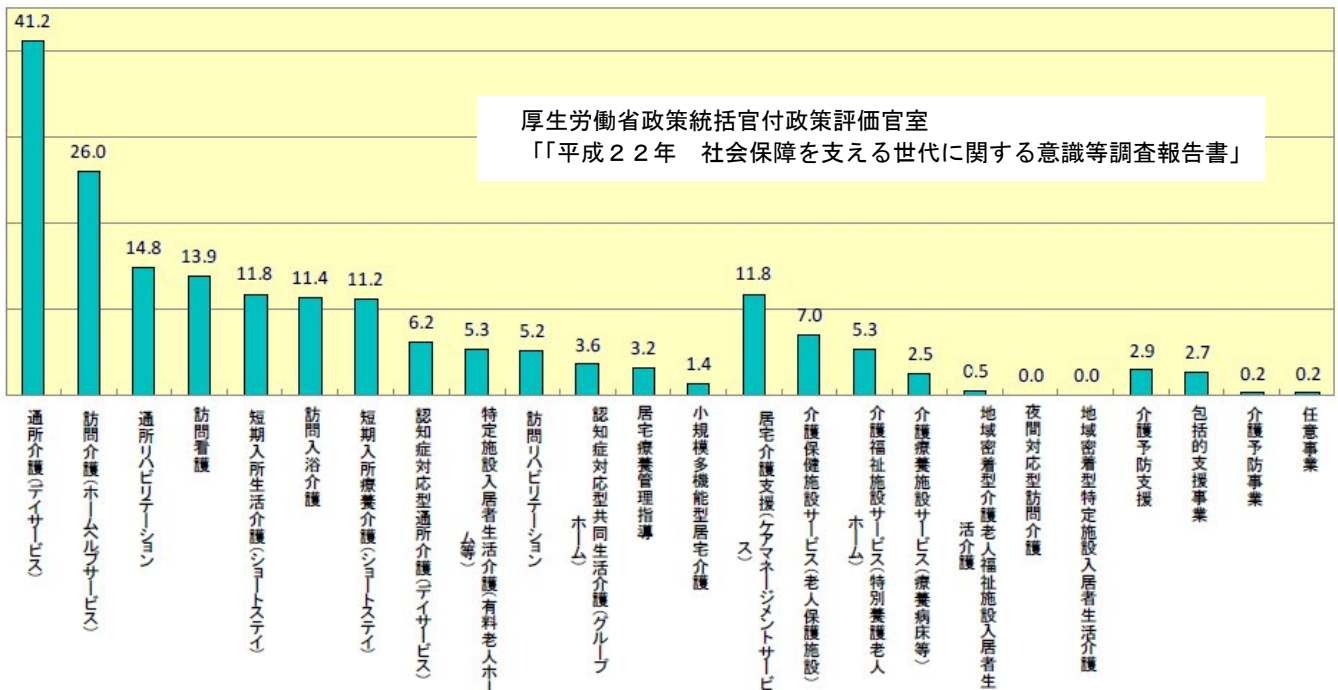
No. 121

厚生労働省は「平成22年 社会保障を支える世代に関する意識等調査報告書」を発表しました。

少子高齢社会を迎え、また現役世代の就業形態の多様化が進むなか、この調査は、社会保障を支える世代の就業状況や子育て、親への支援の状況の実態を把握するとともに、理想の働き方や社会保障に係る負担のあり方などについての意識を調査し、今後の企画・立案のための基礎資料を得ることを目的に行われました。

その中から「介護」に関する項目をみてみましょう。

手助けや見守りをしている親がいると回答した者の親の介護サービスの利用状況（複数回答）



親への支援の状況は？

手助けや見守りのきっかけは「介護」

現在、両親に対して手助けや見守りをしているか否かでは、どの年代も、「していない」が最も多く、50歳以上では、「母親のみ手助けや見守りをしている」が11.9%となっています。

手助けや見守りをしていると答えた人に、要介護度の内訳を父母別に聞くと、父母ともに、要支援、要介護に該当する人では「要支援2」が最も多く、父親は17.3%、母親は15.1%で、要支援、要介護に該当する人が半数以上になっています。

現在、両親に対して手助けや見守りをしており、その要介護度が二次

予防事業の対象者、要支援、もしくは要介護であると答えた人に、これまで利用したことのあるサービスについて聞くと、「通所介護（デイサービス）」が41.2%と最も多く、次いで「訪問介護（ホームヘルプサービス）」26.0%、「通所リハビリテーション」14.8%でした。

理想と思われる親への介護について聞くと、20歳代、30歳代では「子どもが親の世話をする」が、40歳代、50～64歳では「自宅でホームヘルパー等を利用して世話をする」が最も多くなっています。